

3-3

オムツカバー使用者0、トイレでの排泄 77%達成

～快適な排泄は正しいアセスメントから～

ノムダスチェック

トイレで排泄

特別養護老人ホーム ヨコタホーム

介護職員・阿部紅実子

介護職員・佐々木陸

東京都福生市福生 2300 番 4

介護職員・星明子

TEL 042-553-6633

E-mail sakoda@mokuseikai.or.jp

FAX 042-553-6686

URL <http://www.mokuseikai.or.jp>

施設またはサービスの概要

特別養護老人ホームヨコタホームは平成 8 年 4 月に開設され、入所定員 100 名・ショートステイ 6 名の施設です。2 階と 3 階にそれぞれ 50 名とショートステイの方が生活されています。ホームの平均介護度 3.54、平均年齢 83.6 歳。

〈取り組んだ課題〉

排泄介助が業務中心であり、入居者の動きや気持ちをくみ取ったケアができていなかった。

①排泄のアセスメントができていなかった。

②排泄介助で、入居者の快適さの視点がなかった。

そこで、人間としての羞恥・尊厳・意欲の源である排泄を「トイレで排泄」の視点で見直し、活気あるホームづくりに取り組んだ。

〈具体的な取り組み〉

①対象者はヨコタホーム入居者全員に対して、生活課全職員が取り組んだ。

②全入居者に、3 日間、2 時間ごとに飲水量・排泄量（便、尿）のチェックを行った。「ノムダスチェック」と呼ぶ。

③「ノムダスチェック」を元に、入居者個々に飲水・排泄に関する計画を立てた。

④車椅子にて座位が可能な利用者は、トイレでの排泄はできると判断した。

⑤計画を推進するため、個別排泄時間表を作成した。

⑥オムツ交換から P トイレに移行時、膀胱内の尿量測定器を活用した。（膀胱内尿量測定機器「ゆりりん」使用）

⑦オムツからパンツに移行する際に必要なパンツを探した。パットをしっかり固定し、はきごちがよく、洗濯・乾燥が簡単なパンツをみつけた。「フィットパンツ」と呼ぶ。

⑧排便をトイレでするために、下剤服用時間を調整した。排泄介助は、定時の誘導と個別の誘導で行っている。

〈活動の成果と評価〉

①「オムツは外せない」という職員の意識が、「外せる」に変わった。

②オムツ・パンツの変化

	平 17 年 1 月 及び入所日	平 18 年 6 月 22 日現在
おむつ	45 名	0 名
紙パンツ	17 名	4 名
昼：紙パンツ 夜：おむつ	3 名	0 名
フィットパンツ	0 名	64 名
布パンツ	28 名	25 名

③排泄方法の変化

	平 17 年 1 月 及び入所日	平 18 年 6 月 22 日現在
ベッドでのパット交換	44 名	21 名
トイレ（P トイレ含）	39 名	44 名
昼：トイレ 夜：ベッドでの交換	10 名	28 名

〈今後の課題〉